

鶴町地域は、市の築港計画(明治30年～昭和3年)による埋め立てによって造成され、大正8年3月、「鶴町」「鶴浜通」「福町」という新しい町として誕生しました。

鶴町の町名は<sup>しょうむてんのう</sup>聖武天皇の<sup>なにわみや</sup>「難波宮」の近くの<sup>たなべさきまろ</sup>光景を「田辺福麻呂」



が詠んだ「潮干れば葦辺に騒ぐ白鶴(百鶴とも)の妻よぶ声は宮もとどろに」(万葉集巻6-1064)から「鶴」を、また福町は、この詠者の「福」からとられたものです。

昭和51年の住居表示により、鶴浜通は鶴町1~4丁目に、福町は現在の鶴町5丁目となりました。

鶴町地域は運河や内港に面していることから、外資系自動車工場や日本とアメリカの間に海底ケーブルを敷設した会社や橋梁会社等の工場や倉庫が立ち並ぶ臨海工業地帯として、また職場と住宅が近接した地域として発展してきました。

鶴町には、昭和5年から11年まで中央気象台大阪支台が設置され、昭和9年の室戸台風も観測していました。

昭和25年のジェーン台風以降に港湾事業や土地区画整理事業が並行して進められ、現在のような防潮堤に囲まれた地域となっています。



『大正区ホームページ』から転載

